



[財]日本太鼓連盟

NIPPON TAIKO FOUNDATION

会報

発行・編集 2011年 10月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5階

財団法人日本太鼓連盟 理事長 塩見 和子

Tel.03-6229-5577 Fax.03-6229-5580

URL:http://www.nippon-taiko.or.jp Email:info@nippon-taiko.or.jp

内閣総理大臣賞に輝いたのは「ZENKAI 太鼓『和』」!! ～第13回日本太鼓ジュニアコンクール 初の全世界生中継を実施～



(選手宣誓：輪島・和太鼓 虎之介 中岸海里さん)

8月13日(土)、(財)日本太鼓連盟主催、愛知県支部主管により第13回日本太鼓ジュニアコンクールを愛知県名古屋市の名古屋国際会議場センチュリーホールにおいて開催いたしました。本来は3月20日に開催する予定でしたが3月11日に発生した東日本大震災の影響で延期したものです。徳島県代表チームが出場辞退したものの、被災地の宮城県「高倉薬太鼓」・岩手県「大船渡東高等学校和太鼓部」・福島県「岩代郡山うねめ太鼓保存会小若組」の各チームは予定通り参加することができ、内閣総理大臣賞、総務大臣賞、文部科学大臣賞を目指して全国34都道府県(予選実施34支部367チーム4,220名、支部推薦等3チーム)から選抜された45チーム543名(最年少6才、出場者平均年齢13.8歳)が出場しました。

開会式は、優勝旗を持った前年度優勝チーム「橘太鼓『響座』ジュニア」(宮崎)とブラジルの優勝チーム「オザスコ轟太鼓」、今年初の参加となる台湾の優勝チーム「泰山太鼓団」を中央に、全チームが整列して行われました。

国歌斉唱に続き、(財)日本太鼓連盟塩見理事長、愛知県より大村秀章知事、西川愛知県支部長が挨拶。そして、「橘太鼓『響座』ジュニア」より優勝旗並びに優勝杯が返還され、優勝杯レプリカと長胴太鼓一鼓(1尺6寸)が贈呈されました。

続いて抽選で出演順1番目となった石川県代表の「輪島・和太鼓 虎之介」の中岸海里さんが、堂々とした立派な選手宣誓を行い、次いで長谷川副会長による初切り太鼓が演奏されコンクールが幕を開けました。出場45チームは、大会要領に基づき故小口大八先生作曲による課題曲

「燦」と自由曲を5分以内で演奏しました。各団体の演奏が終わる度に、チームの頑張りに対して2,300名を超えるお客様より心からの拍手と声援が送られました。

45チームの演奏の後、第1回台湾太鼓選手権大会の優勝チーム「泰山太鼓団」と第7回全ブラジル太鼓選手権大会の優勝チーム「オザスコ轟太鼓」、そして前回優勝した「橘太鼓『響座』ジュニア」(宮崎)が演奏を披露し、全ての演奏が終了しました。閉会式では、審査委員の渡辺貞夫、喜多郎両氏の講評と塩見審査委員長より総評があった後、審査結果が発表され、「ZENKAI 太鼓『和』」(大分)が栄えある内閣総理大臣賞に輝きました。

優勝チームが発表された瞬間、張り詰めた空気から一転、会場から歓声が沸き起こりました。「ZENKAI 太鼓『和』」は、6歳から18歳までのメンバー12名で構成されたチームで、野依代表の下、練習を積み重ね、見事、優勝に輝きました。また、「手取穴龍 若鮎組」(石川)が準優勝として総務大臣賞を受賞、第3位の「輪島・和太鼓 虎之介」(石川)が文部科学大臣賞を受賞いたしました。

出場全チームがこれまでの練習の成果を余すところなく発揮し、共に競い合った一日でした。今回の大会を通じて多くのことを学び、今後の活動に活かしていくことを確信しております。

また今回は初の試みとして、インターネットによる全世界生中継を行い、会場に来られなかった方々や外国の太鼓愛好者等から大変好評を博しました。

最後に、審査委員、技術委員の先生方、特別出演の「橘太鼓『響座』ジュニア」、「オザスコ轟太鼓」、「泰山太鼓団」の皆さん、ご父兄並びにご来場の皆様、そして3月、8月と2回にわたり行き届いた心配りをして下さった200名にも及ぶ愛知県支部スタッフ・ボランティアの皆様により感謝とお礼を申し上げます。

審査委員

王 妙涓(台湾太鼓協会理事長)

岡田 知之(洗足学園音楽大学名誉教授)

喜多郎(音楽家)

塩見 和子(審査委員長・財団理事長)

西角井正大(日本大学大学院講師)

長谷川 義(全九州太鼓連合会長)

古屋 邦夫(財団技術委員会委員長)

渡辺 貞夫(音楽家)

(五十音順・敬称略)

受賞一覧

優勝・内閣総理大臣賞	ZENKAI太鼓「和」(大分)
準優勝・総務大臣賞	手取宥龍 若鮎組(石川)
第3位・文部科学大臣賞	輪島・和太鼓 虎之介(石川)
第4位	志布志ちりめん太鼓(鹿児島)
第5位	轟太鼓道場(宮崎)
特別賞	尾張新次郎太鼓保存会(愛知)
愛知県知事賞	天城連峰太鼓(静岡)
愛知県教育委員会教育長賞	太鼓研修センター「響」(宮崎)
名古屋市市長賞	岩代國郡山うねめ太鼓保存会 小若組(福島)
名古屋市教育委員会教育長賞	火の神乙女太鼓「爽」(鹿児島)
中日新聞社賞	人吉ねぶか太鼓(熊本)
NHK名古屋放送局賞	打鼓音ジュニア(神奈川)
中部日本放送賞	越中いさみ太鼓保存会(富山)
テレビ愛知賞	熊本市立必由館高等学校 和太鼓部(熊本)
熱田神宮賞	城南火の君太鼓(熊本)
(株)杉浦太鼓店賞	おおむら太鼓連くじら太鼓(長崎)
(株)浅野太鼓楽器店賞	太鼓研修センター「響」(宮崎)
ブラジル太鼓協会賞	火の神乙女太鼓「爽」(鹿児島)
台湾太鼓協会賞	オザスコ轟太鼓(ブラジル)、泰山太鼓団(台湾)
(財)日本太鼓連盟特別賞	

* 「ZENKAI太鼓『和』」(大分)から感想文をいただきましたので掲載いたします。

第13回日本太鼓ジュニアコンクールに優勝して ZENKAI太鼓「和」 代表 野依 修視

「優勝は・・・」あの瞬間を思い出すとまだ涙がこぼれます。今大会は生涯忘れられません。

3月11日(金)AM9:00 この日、県立高校入試の合格発表が行われ、受験の為練習を休んでいたメンバー2名が見事合格。本人たちに電話で「おめでとう。」を伝え、これでメンバー全員が全国大会に向けて纏まり、ギリギリまでやれることは全部やり最終調整をしなければと覚悟を決めた日でした。

PM2:46 東北地方太平洋沖地震発生。ニュース速報等々で情報は伝わってきました。今となっては大変失礼ですが、地震かあと冷静に受け止めていました。練習も終わり帰宅。テレビを見て「大きな大事しちよらっ」と声に出したのを覚えています。

次の日から未曾有の大震災の状況が次々と報道され、太鼓関係者の中で3月20日の全国大会開催の有無が心配され話題に上がり始めました。

3月14日全国大会開催の中止が決定。メンバーのテンションが最高潮に達しようとしている状況での決定でした。開催延期を伝えたのは翌日の練習を終えた21時過ぎの事でした。私からの発表を聴いた瞬間、高校3年生のリーダーが落胆の表情をし、涙を浮かべたことを思い出します。

4月、幻の第13回大会になるかも・・・全国大会が財団、地元支部のご努力により8月13日の開催が決定した・・・毎日の練習再開。

辛い連日の練習、全員が揃わない練習日、上がらない士気、実際、コンクールに出る事が目標で結成した団体ではなく、地域密着、伝統芸能継承団体である等々こうなってみると様々な問題、外野からの意見や考え方を非常に苦慮した時期でした。しかし大分県代表で

ある。中途半端な気持ちでは失礼だと、全国大会に向け団結し勝負しようとメンバー、保護者共に確認しい毎日の練習に臨みました。

8月13日(土)朝から全てがアツい。湿度、太陽光線、やる気200% AM10:30 各県代表の強豪が優勝に向け轟めく全国大会が開会した。出場順は第3部44番。控室では、イメトレ、素振り等々ギリギリまで調整。いよいよ番。メンバーはステージ上でしっかりと演奏をこなし、あっという間に5分間が終了。皆、悔いなくやり切ったという表情で控室へと帰ってきました。残すは結果発表。

PM6:45頃・・・私は、一人会場の片隅に居ました。

「優勝は、大分県代表・・・」この声を聴いた瞬間、心臓が止まる思いをしたと同時に涙がこぼれ落ちました。一息ついてステージ袖へと向かいました。

先ず目に飛び込んできたのは、我が師長谷川財団副会長の姿でした。優勝したことに涙してくれている姿を見た瞬間、また涙が流れ落ち前が見えなくなりました。塩見理事長、浅野副会長、中西常務、沢山の関係者の方々に涙のプレゼントと共に祝福をいただき心から感謝申し上げます。辛い練習を続け、ステージ上で見事な演奏をし、優勝を手にしたメンバー全員本当に大した子供達です。よくやった、おめでとう。

2000年に活動を始めた当初、「3年続けば良い方だろう」そう考えていた自分が今、情けない。自分自身が一番中途半端でした。「子供たちに恵まれた」これが今の状況を説明するのに一番わかりやすい言葉だと思います。

「子供たちに感謝・理解してくれた保護者に感謝・支えてくれた地域に感謝」お陰様です。ありがとうございます。この気持ちでいっぱいです。

「和」の心を胸に

高野 太輝(高校1年)

8月13日に名古屋の地で第13回日本太鼓ジュニアコンクール全国大会が開催されました。東北の方で大震災があったにもかかわらず、この名古屋の地で開催することができて、とてもうれしかったです。

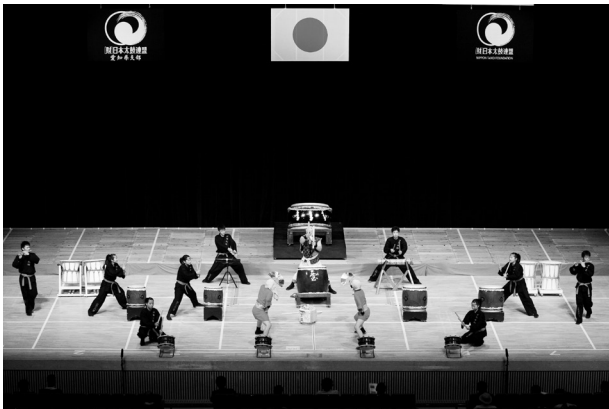
当日の朝、そして本番。僕達は1つになることができました。真なる本当の「和」を実感し、手に入れることができました。正直に言うと、当日の朝まで僕達は本当の1つになっていませんでした。気づいていませんでした。保護者の方も、先生も、部員達も、僕達を応援し、支えてくれている方々も、全部で1つのチームなんだということに気づいていなかったんです。当日の朝、僕達は気づかされ保護者も先生もみんな泣いて、みんなで「行くぞ!」と言ってみんな1つになってホテルから全国大会の会場へ足を進めました。

そして、本番。最高の演奏をすることができました。演奏している途中、「なんだこの響きは!!」と自分でも思いました。今までに聞いたことのない僕達の音の響きでした。これが僕達が1つになった響きなんだと感動しました。

演奏を終え、いよいよ結果発表。「今年の優勝チームは……44番大分県代表ZENKAI太鼓「和」の皆さんです。」

それを聞いた瞬間、涙が止まりませんでした。僕は全国生放送やけ絶対泣かれんし、泣かん!!と自分で心に思っていました。その思いは一瞬にして打ち崩され、自然にうれしくて涙がポロリポロリと雨のように出てしまいました。本当にうれしくてうれしくてたまりませんでした。そして、それと同時に今まで僕達を支えて下さった先生、保護者の方々、応援して下さいました皆さんへの感謝の気持ちが込み上げてきました。本当に「ありがとう」という気持ちでいっぱいでした。

先生はいつも、「勝っておごらず、負けて腐らず。」とメンバーに言い聞かせます。僕は本当にその通りだと思います。日本一になったと言って鼻を高くすることなく、これからも日々今まで以上に努力し、練習をこなしていきたいと思えます。僕達を支えて下さっている人達に感謝の気持ちを忘れず一生懸命がんばっていきたく思います。そして、3月におきた東日本大震災で亡くなった方々を追悼いたします。また被災された方には復興とこれからのよりよい発展と繁栄をお祈り申し上げます。



(優勝時の演奏)

『日本太鼓ジュニア』

主催：(財)日本太鼓連盟

主管：(財)日本太鼓連盟



(記念撮影)

全国制覇への道

宇木 優太(高校1年)

僕たち、ZENKAI太鼓「和」は、8月13日に愛知県名古屋で行われた、第13回日本太鼓ジュニアコンクールで見事優勝し、全国制覇を成し遂げました。こうやって優勝できたのも懸命に指導してくれた野依先生、いつも陰で支えてくれた保護者の方々、そして共に競い合い励まし合ったメンバーのお蔭だと確信しています。

僕たちは、3月20日に開催されるはずだった全国大会に向けて、とても厳しい練習をしていました。しかし、3月11日に東北地方で起こった「東日本大震災」で大会は延期となり、メンバーの士気もいったんは下がったかのように感じました。そんな中、テレビで毎日のように震災の被害状況が報道されていました。それを見ていると、全国大会に出る東北チームは、とても大会に向けての練習は十分でないのに、僕たちは、何の不備もなく太鼓を叩けることを知って、改めて太鼓を叩ける幸せを実感しました。それからというもの、僕たちは日々、一生懸命に練習をしました。

そして大会当日、緊張感はピークに達していましたが、基本であるあいさつや礼儀に気をつけました。本番では、今まで練習してきたことを1つ1つ思い起こしながら叩きました。そして、結果発表のとき、一番最後にチームの名前が呼ばれて、その時はあまり実感が沸きませんでした。後に両親や友達、ほかのチームの方から「優勝おめでとう」と言われてだんだんと優勝した実感が沸いてきました。

これからは、優勝したチームとして恥ずかしい演奏はできないので、1日1日の練習を大切にしていきます。そして、感謝の気持ちを忘れずに、また、優勝を目指していきます。

第14回大会は、群馬県前橋市で開催!

第14回日本太鼓ジュニアコンクールは、来年2012年3月25日(日)、群馬県前橋市の「群馬県民会館ベイシア文化ホール」にて開催します。

海外太鼓交流～ブラジル・台湾招請～

第13回日本太鼓ジュニアコンクールには、7回目となるブラジルと今回が初めてとなる台湾のチームが出場しました。ブラジルからは昨年7月に行われた「第7回全ブラジル太鼓選手権大会」のジュニア部門(15チーム194名参加)で優勝した「オザスコ轟太鼓」の13歳から18歳の男女14名と、引率6名の総勢20名が来日、台湾からは昨年11月に行われた「第1回台湾太鼓選手権」(14チーム151名参加)で優勝した「泰山太鼓団」の12歳から19歳の男女14名と、引率12名の総勢26名が来日しました。

地球の反対側から参加した「オザスコ轟太鼓」が今大会で演奏した「故郷の響」はメンバーが相談しながら作曲したものです。台湾の「泰山太鼓団」は長谷川副会長に指導を受けながら「泰山囃子」をそれぞれ課題曲とともに、日本のジュニアチームに匹敵する見事な演奏を披露しました。メンバーたちは日本のジュニアチームのレベルの高い演奏を目の当たりにして、とても感動し、自分たちも今後ますますがんばっていききたいと意欲を示していました。

大会翌日には両チームが揃って熱田神宮へ向かい成功御礼の参拝をし、お別れました。台湾チームはその後名古屋近郊を見学しながら日本の夏を味わって中部国際空港から帰路につきました。ブラジルチームは、参拝後、オザスコ市と姉妹都市である三重県津市に移動、津市の「津高虎太鼓」や地元の郷土芸能団体との交流会に参加しました。翌日には津市在住のブラジル人等を招き小学校で演奏、そして浜名湖ボートレース場での演奏と普段では味わえない体験をしました。

東京では、お台場の「船の科学館」を見学した後、日本財団を表敬訪問し、佐藤常務理事よりねぎらいと励ましのお言葉をいただきました。日本の印象などを聞かれ、緊張しながらも一人一人一生懸命に答えていました。

今回はこれまでになく日本語を話せるメンバーがいたものの、十分に会話ができるわけではなく、これから来日するチームには日本語をもっと勉強してくるよう伝えると反省していました。例年であれば雪と桜を楽しみにしているのに、今回は灼熱の太陽が出迎えていました。「太鼓演奏はもちろんのこと、あこがれの日本で素晴らしい体験



(熱田神宮で記念撮影)

をし、一生忘れない良い思い出となった。皆様に感謝したい。学んだことを活かして、これからはがんばって太鼓を続けていきたい。」と張り切って帰国しました。



(ジュニアコンクールでの演奏)

オザスコ轟太鼓 キャプテン 上和田ラファエル悠治

僕の両親が数年間日本に住んでいたことと、僕が日本で生まれたこともあり、僕は幼い頃から富士山や東京タワーなど、日本の名所の写真を見て育ちました。そのため、僕の日本に対する憧れは強く、日本に行きたいという思いは、年を経るごとに募っていきました。そしてこの度、日本財団並びに日本太鼓連盟のおかげで、僕のこの夢は果たされることになったのです。

悲しいことに、当初ジュニアコンクールが予定されていた3月、日本は地震と津波によって大きな被害を受けました。僕たちはふるさとである日本を心から心配し、日本の復興を心から応援しよう、日本に僕たちの元気で明るい未来を届けよう、という思いで熱心に練習に励みました。

ジュニアコンクール開催も危ぶまれていましたが、延期になり、僕たちも出場することができました。まずはその素晴らしい機会を与えてくださったことに感謝します。それだけでなく、日本に滞在した9日間、毎日違う美味しい物を食べ、一流のホテルに泊まらせてもらい、細かいところまで気を配っていただきました。昼の部屋に布団を敷いて寝る、富士山の美しい景色を眺める、温泉に入る、伝統的な日本食を食べる、など、日本でしか味わえない経験もたくさんさせていただきました。

また、日本と台湾のジュニア太鼓チームとの交流の場では、みんなとても楽しんで、充実した時間を過ごせたと思います。

どこに行っても、出会う人がみな温かく親切で、その礼儀正しさと気配りに驚きました。ジュニアコンクールの会場では、誰でもが元気に挨拶を交わしているのに気づき、僕たちはみんなとても感心しました。

日頃から、日本の人々の時間厳守の姿勢については母から聞かされてきました。それは1分の遅れも無いスケジュールの正確な進行という見事な結果をもたらします。

この日本人の長所を、僕たちは移動や集合の中で実践してきました。それによって、10日に満たない短い期間の中で、たくさんのことを成すことができました。日本太鼓連盟の方々のお世話のおかげで、太鼓のために日本に行くことができ、太鼓だけでなく、これからの僕たちの人生の中で役立つことをたくさん勉強できたと思います。

第13回日本太鼓ジュニアコンクールでは、48ものグループの演奏を1日で進めていて、前日のリハーサルでも本番当日も、緻密な計画と、それを整然と実行してこそそれが可能になるんだということを実感しました。日本のコンクールの仕組み、大きな劇場、最良の太鼓を誰でもが使えること、ステージへの楽器搬入をサポートしてくれるスタッフ、多様な太鼓と高い技術を駆使した創造的な演奏など、多くのものを見ることができました。

僕たちは、3ヵ所での公演のチャンスに恵まれ、その際は日本で一番素晴らしい楽器を使わせてもらいました。演奏を見てくれた人たちに僕たちの気持ちが伝わり、この経験をずっと大切に僕たちの心に仕舞っているように、見てくれた人たちの心にも残っていくことを願っています。

リーダー 大石エンリケチアゴ 誠(21)・大石ルカスフェルナンド英理(19)・高崎ルアナ真奈美(20)

僕たちの今回の旅行は素晴らしいものでした。オザスコ轟太鼓にとって実に重要な意味を持つものとなりました。ブラジルを代表し、日本で演奏するため、チーム全体が向上し、団結力は今もなお強まり続けています。厳しい練習を積み重ね、日本滞在期間に不自由をしないよう、日本語の勉強もしました。

日本の統制の取れたシステム、忍耐強く礼儀正しい態度、時間厳守計画遂行への取り組み方を目の当たりにできたことは、何よりの素晴らしい経験となりました。ジュニアコンクールは、どのように静謐な雰囲気の中、滞りなくイベントを組織し、実行するかを学ぶまたとない機会でした。1日に満たないコンクールの中で、50近い団体が演奏するなど、想像もできませんでした。多様な楽器とそれらの持つ響きに、管理のための広い場所が与えられていること、選手のための十分な控室と広い客席に、このようなイベントを開催するに相応しい設備が完璧になされていることに、大変感動しました。ブラジルではこんな場所はなかなかありません。日本では数年前から会場を検討し、組

織や場所の準備に一年以上費やしています。本番の2、3日前から会場の準備を始め、綿密な計画のもと実行する大切さを思い知りました。

会場では、「おはようございます」、「よろしくおねがいます」という挨拶があちこちで聞こえ、団体とは関係なく人たちに挨拶をし、他者への敬意を表していました。

今回使用させていただいた太鼓の品質の良さについては言うまでもありません。どれも僕たちが知っている響きとは全く違い、衝撃的でした。僕たちは日本での全ての演奏で、日本太鼓連盟と浅野太鼓楽器店の恩顧と尽力のおかげで、世界で最も素晴らしい太鼓を使うことができました。

僕たちは、4箇所、文化交流を目的とした演奏を行い、全箇所暖かく接待されました。特に津市では、イベントの目玉として扱われ、予想もできなかった歓待に驚き、嬉しかったです。

観光先については、忘れられないことばかりです。美しい風景、観光名所、整備された道路、洗練された人々。僕たちは、熱田神宮や東京タワー、日本財団ビルなど様々な場所に行くことによって、斬新なデザインで整えられた市街や建築様式、日本の伝統や歴史、そして日本の文化に触れられました。

食事も、ご飯、納豆、味噌汁、豚肉、他にも様々な日本料理を朝から食べるなど、新しい経験をさせていただきました。35℃の暑い日に、カレーやしゃぶしゃぶを食べることもしました。料理は本当に美味しく、素晴らしかったです。

日本の特に傑出している点は、まず高い技術力です。街の至るところにある自動販売機からトイレのウォシュレットまで、高度な技術が伺えます。また、僕たちが泊まったホテルは、良い設備と素晴らしいサービスが充実していて、驚きの連続でした。

太鼓店や和楽器店に行き、いろいろなタイプの楽器を見るのを楽しみにしていましたが、豪雨の為にそれは叶いませんでした。できることなら日本の太鼓チームの練習などを見学したいとも思っていました。ブラジルの太鼓奏者たちは皆、日本の太鼓奏者たちがどのようにして興味深いリズムや振り付けを組み合わせ曲を作っているのかを知りたいと思っています。

そして、できることなら新幹線に乗ってみたいかったです。短期間の中で多くのスケジュールをこなさねばならないのに、その上さらにこのようなプログラムを組むことは、もちろん不可能と思いました。

今回の旅行では、日本語の使用も非常に重要なポイントでした。残念ながらまだ自分の考えを全て日本語で表現することはできませんが、日本語を使うことで、旅行をより有意義なものにすることができました。これは、僕たちだけでなく、日本に行く素晴らしいチャンスを持つこれからのグループにも推奨したいです。

僕たちは日本太鼓連盟の暖かいお世話によりブラジルチームの中で初めてポートレース場で演奏する機会をいただきました。このことは忘れられない思い出になると思



(津市での交流会 津高虎太鼓と記念撮影)

います。

日本財団および日本太鼓連盟に、遠く離れた2つの国の縁を繋いでくださることに心から感謝いたします。僕たちは太鼓を打つことによって、目標に向かって努力し、それを達成することを決して忘れません。

僕たちはここブラジルで、太鼓が発展し続けるよう、長年にわたって継続的に貢献していきたいと考えています。ブラジルでの太鼓選手権大会も、少しずつレベルアップしてきていますし、日本で見たジュニアコンクールに近づくよう、努力していきたいと思います。



(日本財団を表敬訪問した「オザスコ轟太鼓」)

ジュニアコンクールに参加した感想

台湾泰山太鼓団代表 鄭守芳

感謝！感謝！

和太鼓と出会ってから、太鼓の響きに魅せられて、皆の同心協力により、曲が完成し、演奏を終える時が一番楽しくて、嬉しい気持ちでいっぱいです。

泰山太鼓のメンバーはほとんどが幼いときから同じ幼稚園で過ごし、一緒に太鼓を練習して来ました。それぞれが違う中学校、高校に進学し、学校の勉強が忙しくなると皆で練習時間がなかなか合わず、だんだん太鼓に対する熱気が冷めていきました。

2007年11月に台湾太鼓協会が設立してから日本太鼓連盟の塩見理事長を始め、事務局の皆様や講習会の諸先生方に大変お世話になり、特に源流太鼓の長谷川先生に曲を書いて頂き、素晴らしい曲に皆太鼓に対する熱意が再びよみがえりました。王理事長の協力を頂きながら長谷川先生に多大なご指導も頂き、太鼓の厳しい練習をしながら子どもたちに人に対する思いやりの心、感謝の心やチームワークの大事さなども先生からしっかり学びました。

塩見理事長が2009年台湾太鼓公演の時に台湾でもジュニアコンクールをし、優勝チームが代表で日本のジュニアコンクールへ出場出来ると約束してくださいました。日本全国各地の優勝チームに会える事を楽しみにし、泰山太鼓のメンバー達は台湾代表になる事を目標とし、練習！練習！を重ねて参りました。

そして、昨年の11月に台湾初の太鼓ジュニアコンクールが開かれ、運が良く、泰山太鼓が優勝し、日本行きの切符を頂きました。今年3月20日のために準備万全整えて

いる所で3月11日に東日本大震災が起き、あまりにも大きな災害でジュニアコンクールが中止になったこと、とても残念に思いましたが災害に遭われた方の事を思うと切なく、一日も早く復興出来るようにお祈りするばかりです。3月12日台湾をあげてすぐに東日本大震災の義捐金がどんどん集まり、協会の会員も色んな所で協力いたしました。日本の方々の落ち着いた大震災の対応に感服致しました。

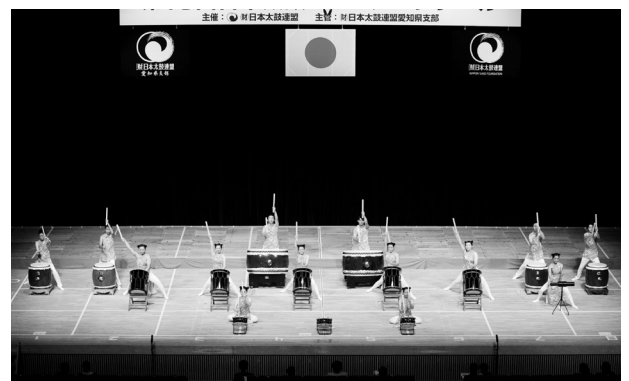
日本の底力はやはり強く、8月にジュニアコンクールを開催する事になり、メンバーたちは心からもう一度調整し、新たな気持ちで名古屋へ参りました。

まず、大きな会場と広い舞台に驚き、大澤局長の監督の下で舞台の裏方の段取り、名古屋支部のスタッフの仕事ぶり、太鼓の出し入れから各チームのリハーサルなどどれも正確で時刻通りに出来、すばらしく、とても勉強になりました。メンバー達はそれを見て大きな衝撃になり、コンクールまで毎晩遅くまで練習しました。

全国ジュニアコンクールの当日それぞれチームの熱演に感動致しました。また、熱田神宮の成功祈願も叶えて、メンバーたちは無事に演奏する事が出来ました。最高の演奏が出来ました。皆一回り大きくなったように思います。これから台湾の後輩達にサポートする責任があると自覚したようで嬉しく思います。感謝！感謝！

日本に着いてから台湾に帰国するまで、西川愛知県支部長を始め、連盟の方々にとっても親切にいただき、一生忘れません。響座のメンバーとブラジルの轟太鼓の皆様と交流が出来、とても楽しかったです。

最後にお世話になった皆様、心より厚くお礼を申し上げます。台湾にもぜひお越しください。



(ジュニアコンクールでの演奏)



(オザスコ轟太鼓と泰山太鼓団の皆さん)

各地で太鼓講習会を開催！



(5級基本講座の様子：秋田)

＜第42回日本太鼓全国講習会(秋田)＞

9月3・4日(土日)、秋田県支部主管の全国講習会を、「仙北ふれあいセンター」にて実施いたしました。地元秋田県をはじめ、全国12府県から93名が受講しました。

日本全土が台風に見舞われ、八丈・羽田便が欠航となったため八丈太鼓講座は中止となりましたが、受講者の希望を受けて他の講座に振り分け無事開催することができました。開会式では、財団の塩見理事長と秋田県支部の大友勲副支部長からそれぞれ励ましと歓迎の挨拶があり、講習会がスタート、皆が熱心に受講している姿が印象的でした。

○専門講座 講師

- 八丈太鼓講座 菊池 修氏(東京都)*中止
- 大太鼓講座 龍 連山氏(山形県)
- 蘭導太鼓講座 鈴木 孝喜氏(秋田県)

○基本講座 講師

- 総合指導 古屋 邦夫氏
- 3級基本講座 安江 信寿氏
- 4級基本講座 渡辺徳太郎氏
- 5級基本講座 渡辺 洋一氏

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

- 1級検定 2名受験 2名合格(認定なし)
- 2級検定 7名受験 6名合格(2名認定)
- 3級検定 8名受験 8名合格・認定
- 4級検定 9名受験 9名合格・認定
- 5級検定 11名受験 11名合格・認定



(5級基本講座の様子：石川)

＜第51回日本太鼓支部講習会(道西)＞

9月24・25日(土日)、北海道道西支部主催による支部講習会が岩見沢市の「ほっとかん」で行われ、4・5級基本講座に地元北海道28名が参加しました。開会式では田中浩照新支部長より歓迎と励ましの挨拶があり講習会が始まりました。台風一過のすっきりとした秋晴れの中、受講生は一生懸命、講習に励んでいました。

○基本講座 講師

- 総合指導 古屋 邦夫氏
- 4級基本講座 橋本 光司氏
- 5級基本講座 渡辺 洋一氏

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

- 4級検定 2名受験 2名合格・認定
- 5級検定 23名受験 23名合格・認定



(挨拶をする田中新支部長：道西)

＜第52回日本太鼓支部講習会(石川)＞

10月8・9日(土日)、石川県支部主催による支部講習会が「内灘町文化会館」で行われ、3・4・5級基本講座に地元石川県をはじめ46名が参加しました。開会式では得能力知副支部長より歓迎と励ましの挨拶があり講習会が始まりました。秋晴れの中、受講生は一生懸命、講習に励んでいました。

○基本講座 講師

- 総合指導 古屋 邦夫氏
- 3級基本講座 安江 信寿氏
- 4級基本講座 若山 雷門氏
- 5級基本講座 渡辺 洋一氏

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

- 3級検定 9名受験 7名合格・認定
- 4級検定 12名受験 12名合格・認定
- 5級検定 20名受験 20名合格・認定

*東日本大震災の支援金報告

- 7/15以降10/21まで
- 九戸村 政実太鼓(岩手県)
 - 岡山県支部
 - ブラジル太鼓協会
 - おおむら夏越まつりチャリティ(長崎県)
 - 和太鼓チャリティ・コンサート(長野県)
- 総額 10,918,065円**

事務局便り

公益財団法人移行に係る 最初の評議員選定委員会

公益法人改革に向かって作業行程の一つである、「最初の評議員選定委員会」が9月22日(金)に東京のアーキヒルズクラブで開催されました。

これは、公益財団法人への移行に際して定められている会議で、新法人となる最初の評議員候補者を予め選定するものです。定めにより、現在の評議員代表1名、監事代表1名、事務局より1名、学識経験者2名で構成されており、当日は、5名中病欠1名を除く全員が出席して行われました。

これからも、新法人設立に向けて準備を進めてまいりますので、会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

第43回日本太鼓全国講習会(福岡県)のお知らせ

期 日：2012年2月18・19日(土日)

主 管：全九州太鼓連合、(財)日本太鼓連盟福岡県支部

会 場：レスポアール久山(福岡県糟屋郡久山町大字久原2603-1)

専門講座

大江戸助六太鼓講座(単式複打法) 小林 正道氏

締太鼓講座(単式単打法) 渡辺 洋一氏

秩父屋台囃子太鼓講座(複式複打法) 高野 右吉氏

基本講座

総合指導 古屋 邦夫氏(技術委員会委員長)

3級基本講座 安江 信寿氏(1級公認指導員)

4級基本講座 若山 雷門氏(1級公認指導員)

5級基本講座 松元 和敏氏(1級公認指導員)

申込先：

(財)日本太鼓連盟福岡県支部 事務局長 三角 泰子

〒811-2405 福岡県糟屋郡篠栗町篠栗4781-1-3

Tel& Fax：092-410-7117 携帯：090-9659-9089

*不在の場合は、留守録に用件を入れていただくか、Faxにてご連絡頂きますようお願いいたします。

*詳細は決定次第、当財団ホームページまたは会報1月号にてお知らせいたします。

第8回日本太鼓シニアコンクールのお知らせ(石川県輪島市)

期 日：2011年11月20日(日) 開演14:00 入場無料

*日本太鼓ジュニアコンクール石川県大会に続き、シニアコンクールが行われます。

会 場：輪島市文化会館(石川県輪島市河合町20-1-1)

主 催：(財)日本太鼓連盟、(社)石川県太鼓連盟、(財)石川県芸術文化協会、北國新聞社

主 管：(財)日本太鼓連盟石川県支部

連絡先：(財)日本太鼓連盟 〒107-0052東京都港区赤坂1-2-2 Tel.03-6229-5577 Fax.03-6229-5580

出演数：30組(予定)

ジュニアコンクール予選・推薦の結果報告は11月末締切です！

2012年3月25日(日)群馬県前橋市「ベイシア文化ホール」で第14回日本太鼓ジュニアコンクールが開催されます。各地において予選が行われておりますが、終了した支部は11月末日までに予選実施報告書・出演団体推薦書・出演申込書を提出して下さい。課題曲は全チームが確定後、年内に一斉配布致します。

なお、予選のない地域で出場を希望される団体は、財団事務局までご連絡下さい。(Tel.03-6229-5577)

日本太鼓助成金交付事業の2012年度分を募集

2012年度分(2012年4月～2013年3月までの事業)の助成金交付事業募集の締切日は、12月26日(月)となります。

1事業あたりの助成金は20万円となっております。詳細は、財団事務局・黒木までお問合せ下さい。

(財)日本太鼓連盟 Tel.03-6229-5577 Fax.03-6229-5580 Email:info@nippon-taiko.or.jp